

## とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	西東京市柳沢5-8-2
園名	やぎさわ保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

音・・・どんな音がするの？

<テーマの設定理由>

風や葉っぱ、紙など普段何気なく耳にする音に興味を示し、楽しむ姿がある。すぐ手にできる素材や楽器などに触れ、感じた音に興味を持ち、音によって変わる振動を楽しみ、友だちと共感し、自分にとっての心地良い音などがあることに気付かせる。

### 2. 活動スケジュール

12月4日、12月16日、12月23日、12月25日に活動を実施する。  
・今まであった積み木の量を増やしたことで、子どものあそびの変化を見守る。  
・積み木の種類を増やしたことで、子どもから始まる遊びを見守る。  
・あそびを通して、自然の中にある音や感触を楽しむ。  
・楽器に興味を持ったうえで、様々な素材を使用してオリジナルの楽器作りをする。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

#### 【準備したもの】

- ・積み木（ベビーキューブ、リグノ、ネフスピール）
- ・ビニール袋
- ・楽器（キーボード、タンバリン、鈴、カスタネット）
- ・容器（小さいペットボトル、カップ、丸いプラスチックケース）
- ・素材（どんぐり、まつぼっくり、鈴、カラーボンボン、ビーズ）

#### 【環境設定】

- ・保育室に積み木コーナーを作り、積み木を使用して広々と遊べるように設定する。
- ・室内であそぶ時間を夕方に増やす。
- ・楽器に興味を持てるよう、誕生会で楽器を使用した簡単な出し物をする。

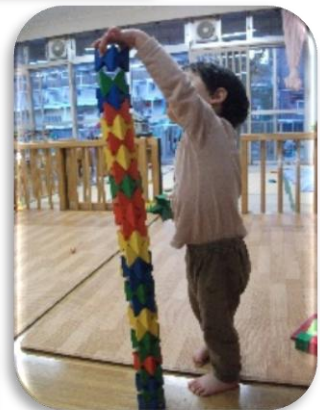
## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

- ・積み木を高く積んでは崩してを繰り返し、集中してあそぶ。保育者と一緒に数える。「あか」「あお」などと色を言いつつ一列に並べたり、色別に分けて並べる。
- ・積み木を耳元で振り、音を鳴らしてあそぶ。歌に合わせて積み木を振ったり、積み木同士を叩き合わせて音をだす。積み木の形をみて、見立てあそびをする。
- ・散歩のでかけ、自然の中で色々な場所を歩き、音や感触の違いを楽しむ。落ち葉の上に寝ころんだり、どんぐりやまつぼっくりなど拾ったものをビニール袋に入れていく。
- ・自由に楽器に触れ、色々な音を鳴らして楽しむ。散歩先で拾ってきたものや保育者が用意したものでオリジナルの楽器をつくる。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ベビーキューブを高く積んでは崩すことを繰り返し楽しむ。高く積めると保育者の「高くなったから、そーっとね」や「ゆれてる」の声かけをきいて、慎重にのせていく。たくさん積めると手をたたいて喜んだり、「みて」と保育者に訴え共感を求める。また、保育者と一緒に「いーち、にー、さーん…」と数える。
- ・畳の縁に合わせて「あか」「あお」と色を言いながら一列に並べる。色別に分けて並べじゅくりとあそぶ。並べた子と別の子が並んでいるベビーキューブを見つけると一本橋のように上を歩こうとしたり、並んでいるベビーキューブをまたいで通る。
- ・カゴにしまっているベビーキューブをひっくり返し、ガッシャーんと音になるのを楽しむ。ベビーキューブを耳元で振り、音を鳴らす。「しーってしないと聞こえないよ」、「おなじ音だね」「どれがおなじかなー」と、色々なベビーキューブを鳴らし、音の違いに気づき、同じ音を探す。
- ・保育者が「おもちゃのチャチャチャ」のスケッチブックシアターをすると、ベビーキューブを出してきて、歌に合わせて振ったり、ベビーキューブ同士を叩き合わせて音を出す。リグノ同士を叩き合わせ音を出すと、他児から「うるさい」とベビーキューブの時には出てこなかった言葉が出てくる。音の大きさの違いに気づく。
- ・「めがね」といってリグノを2つ持ち目にあてたり、「おうちコンコン」と言って、リグノを積み「ばーちゃんちの次が〇〇のうち、ここがピンポン」と見立てる。ベビーキューブをコップに入れ揺らし、カラカラと音を鳴らし氷に見立て保育者のところに「どうぞ」と言って持ってくる。
- ・ネフスピールは保育者の積み方を見て、模倣し高く積むようになる。
- ・散歩先で落ち葉やどんぐり、まつぼっくりを拾い、「もってかえる」と保育者に言い、ビニール袋に入れていく。
- ・落ち葉の上と歩いた後、保育者が砂利の上を音が鳴るように歩くと、真似をして歩く。「葉っぱの音と違うね」と保育者が声をかけると、「ザッザッザッ」と鳴ってる音を子どもたちが言葉にする。
- ・リズム遊びの時に保育者が弾くピアノや誕生会の出し物をきっかけに楽器への興味を持つ。楽器を自由に使えるようにすると、自分で色々な音を出して楽しむ。5歳児が和太鼓を叩く姿をみて、タンバリンを床において叩いてみる。
- ・散歩で拾ったどんぐりや松ぼっくり、カラーボンボン、ビーズ、鈴などを様々な容器に入れ、楽器をつくる。容器に入れたものを出したり、入れたりしてあそぶ。容器から出ないと「でてこない」と話したり、指を入れて取ろうとする。容器の入口に入らない物もあり、「はいんな〜い」「はいった〜」と大きさの違いに気づく。容器の入口にどんぐりや鈴がはまり困る姿があり、保育者に助けを求める。
- ・楽器が完成すると、すぐに振り、音を鳴らし「いいおと〜」と喜んで楽しむ。カラーボンボンのみの楽器を振り、「きこえない」と言ってすぐ片付ける。
- ・オリジナルの楽器が完成し鳴らしているうちに知っている歌を口ずさみ始める。保育める。保育者が子どもたちの歌に合わせて、キーボードを弾くと盛り上がり、楽器をならしつつ歌をうたい音楽を楽しむ。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

・1つの玩具の量が増えることで、子ども自身が主体的にあそびへ向かい、集中して遊ぶ姿が見られたり、今まで積み木に興味を示さなかつた子が興味を示し、夢中であそぶ姿みられたので、玩具の量が多いことの大切さがわかった。

・子どもが使いたいようにあそんでいる姿を見守ることの大切さを知ることができた。積み木同士を叩き合わせたり、格子戸の上から積み木を落としたり等、積み木の遊び方と違うことを今まで禁止していたが、子どもの気づきを見守る事で、子ども自身で積み木の種類によって音の違いに気づくことができたり、ままごとに使って見立てあそびが広がることがわかった。

・子ども自身が探究活動を一通り楽しんだ上で、保育者がさらに興味や意欲につながるような援助やモデルを示すことであそび、探求活動が広がっていた。

・様々な音に触れたことで、散歩先で今まで気付かなかった、新しい音を発見するいい機会となった。

・「これはどんな音かな？」と楽器あそびや手作りマラカスを作る活動で音の変化を感じとることができた。

・音が鳴るもの、ならないものを手に持ち音を感じた後、自然に音が鳴るものを選び、音を出して歌を口ずさんだり、踊って楽しむ姿が見られるようになり、子どもたちの身近な音への興味・関心を深める良い機会となった。